

平成20年1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859）

二十四節気

日本の暦は明治5年（1872）12月3日を明治6年1月1日と定め、現在使われている太陽暦（新暦）に改暦されました。それ以前は太陰太陽暦（旧暦）が使われていました。

太陰とは月のことで、月は地球の衛星で地球の周りを一周するのに約29.5305日かかり、この間を一月としたのに対し、太陽暦は地球が太陽の周りを24時間で1回自転しながら回って一周するのに約365.2422日（1太陽年）かかり、この日数を12分割したものが太陽暦における一月としました。江戸時代は太陰太陽暦を用い、一月の長さは太陰暦によるものだったので、単純に1.2倍したのでは、一年で1.1日ほどのズレがでます。そこで19年に7回、13ヶ月の年を作り、この余分の月を閏月としました。

一月の長さは太陰暦、一年の長さは二十四節気に基づく太陽暦でしたので、いつを閏月にするかは二十四節気の冬至を起点とし、15日ごとに「節気」と「中気」をおくと太陰暦と太陽暦1年とのズレがある為、中気のない月が生じた場合を閏月としました。又、旧暦では1月から3月までを春、4月から6月までを夏、7月から9月までを秋、10月から12月までを冬としたので、現在とは一ヶ月ほどのズレがあります。又二十四節気の月日は毎年微妙に変化します。

春（万物が発る季節）

立春[りっしゅん]・正月節：現在の2月4日頃

まだ寒さの厳しい時期ではあるが日脚は徐々に伸び、暖かい地方では梅が咲き始める頃。

雨水[うすい]・正月中（睦月）：現在の2月19日頃

空から降るものが雪から雨に替わり、深く積もった雪も融け始める頃。

啓蟄[けいちつ]・二月節：現在の3月6日頃

冬ごもり中の虫が目を開き姿を現す頃。柳の若葉が芽吹き、露の塔が出る頃。

春分[しゅんぶん]・二月中[如月]：現在の3月21日頃

昼と夜の時間がほぼ同じ。花冷えや寒さの戻りがある頃。

清明[せいめい]・三月節：現在の4月5日頃

清浄明潔の略といわれ、南東風が吹き、草木の芽がでる良い季節。

穀雨[こくう]・三月中（弥生）：現在の4月20日頃

田畑の準備が整い、それに合わせるように柔らかな春の雨が降り、穀物の芽を出させる頃。

夏（熱の季節）

立夏[りっか]・四月節：現在の5月6日頃

野山が新緑に彩られ、夏の気配が感じられる頃。蛙が鳴きはじめる頃、筍が生えてくる頃。

小満[しょうまん]・四月中(卯月)：現在の5月21日頃

陽気がよくなり、草木などの生物が生長して生い茂る頃。

芒種[ぼうしゅ]・五月節：現在の6月6日頃

雑穀の種まきをする頃。田植えの時期に入る。

夏至[げし]・五月中(皐月)：現在の6月21日頃

昼間の時間が一年で一番長くなる。花菖蒲や紫陽花などの雨の似合う花が咲く頃。

小暑[しょうしょ]・六月節：現在の7月7日頃

梅雨明けが近く、本格的な暑さが始まる頃。

大暑[たいしょ]・六月中(水無月)：現在の7月23日頃

最も暑い頃。空には雲の峰が高々とそびえるようになる頃。

秋(草木が紅く染まる季節)

立秋[りっしゅう]・七月節：現在の8月8日頃

一年で一番暑い頃。

処暑[しょしょ]・七月中(文月)：現在の8月23日頃

処暑は暑さが止むという意味。萩の花が咲き朝夕は心地よい涼風が吹く頃。

白露[はくろ]・八月節：現在の9月8日頃

野には薄の穂が顔を出し秋の趣がひとしお感じられる頃。

秋分[しゅうぶん]・八月中(葉月)：現在の9月23日頃

昼と夜との長さがほぼ同じになる日。秋の七草が咲きそろそろ頃。

寒露[かんろ]・九月節：現在の10月8日頃

山の木々の葉は紅葉の準備に入り冷たい露の結ぶ頃。稲刈りもそろそろ終わる頃。

霜降[そうこう]・九月中(長月)：現在の10月23日頃

北国や山間部では霜が降りて、野の花の数は減り始め変わって山を紅葉が彩る頃。

冬(万物が冷ゆる季節)

立冬[りっとう]・十月節：現在の11月7日頃

日は短くなり時雨が降る季節。北国からは初雪の知らせも届き、関東では空っ風が吹く頃。

小雪[しょうせつ]・十月中(神無月)：現在の11月22日頃

日差しは弱まり冷え込みが厳しくなる季節。木々の葉は落ち平地にも初雪が舞い始める頃。

大雪[たいせつ]・十一月節：現在の12月7日頃

朝夕には池や川に氷を見るようになる。山々は雪の衣を纏って冬の姿となる頃。

冬至[とうじ]・十一月中(霜月)：現在の12月22日頃

1年中で最も夜の長い日。この日より日が伸び始めることから古くはこの日を年の始点と考えられた。

小寒[しょうかん]・十二月節：現在の1月5日頃

寒さはこれからが本番。池や川の氷も厚みを増す頃。

大寒[だいかん]・十二月中(師走)：現在の1月20日頃

1年で一番寒さの厳しい頃。逆の見方をすればこれからは暖かくなるということであり春はもう目前。

(文責 儘田 小夜子)